

命の水

著者	吉田 新
雑誌名	大学礼拝説教集
号	21
ページ	99-103
発行年	2017-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00024501/

命の水

大学宗教主任 吉田 新

ヨハネによる福音書 第四章七―十五節

7 サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。8 弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。9 すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。10 イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」11 女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。12 あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれで

もまた渴く。¹⁴しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。¹⁵女は言った。「主よ、渴くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」このイエスのみ言葉を理解するために、わたしたちは「水とは何か」について学ぶことから始めたいと思います。わたしたちの体は水できていると言われます。実際、人間の体は六〇%が水で構成されています。もう少し詳しく説明しますと、体を構成する一つ一つの細胞、この細胞はタンパク質、核酸、糖質などの分子などで構成されていますが、それらをつなぎ合わせているのが水です。ですから、水がなければ人間の体はその根本から成り立ちません。しかし、日常生活における水の大切さを知っている人は、どれほどいるでしょうか。

ここに一杯の水があるとします。たとえば、食事をしている時にこの水をテーブルの上や床にこぼした時、皆さんはどのように思われるでしょうか。多くの方は「テーブルクロスや絨毯など

が濡れてしまい困った」と思うでしょう。しかし、「水がこぼれてしまってもったいない」と思う方はどれほどいるでしょうか。日本に生きるわたしたちは、日々の生活のなかで大量の水を使っています。しかし、このような安全な水を飲める人は、世界のなかでごく少数であることはあまり意識されていません。

中近東では川の水は雑菌が混在しており危険なため、人々は経験的に湧水か地下水に依存してきた歴史があります。本口の聖書の箇所にありますように、わずかな井戸水に人々は集まります。わたしたちが生きている地球は水の惑星といわれていますが、飲み水として利用できる水はどのくらいあるのかご存じでしょうか。地球上の水は九八%が海水です。淡水はわずか二%にすぎません。その大部分は南極や北極の氷山ですから、わたしたちが利用できる水は、全体の〇、〇一%にも満たないのです。地球上の水のすべてが、風呂桶一杯の水だったとしますと、わたしたちが使える水はその風呂桶に落ちるわずか一滴です。この一滴の水を、人間を含むすべての陸上生物が分かち合って生きているのです。さらに人間が飲める飲料水となるとどのくらいの量になりますでしょうか。

生きるために水はなくてはならないものでありながら、その量は実はごくわずかである。この水の貴重さをわたしたちはどれほど知っているでしょうか。そのことをよく理解しないと、本口、

お読みしたみ言葉の真意は分からないと思います。イエス様から水を頂いた、という程度の話ではありません。貴重な水のなかでもさらに貴重な水を頂くという話なのです。おそらく、水不足が深刻な地域に生きる人は、豊かな水があふれる日本に生きる人とは別な視点で、この箇所を読むと思われます。

イエスとサマリア人の女性は、水に関する対話を持ちます。そこで、イエスは命を保つための水よりも、もっと大切な水があると述べます。普通の水は飲めば再び乾きます。わたしたちは絶えず、水を飲み続けなくてはなりません。いつも何かに飢え、渇き、水を探し続け、水を飲んで、もまた乾く存在です。生きている間、渇きは満たされることはないのです。

しかし、永遠に乾くことのない水があるとイエスは教えます。イエスが与える水は、与えられた人のなかでたえずわき出る泉となります。それはどのような水なのか。永遠の命に至る水です。永遠の命とは何でしょうか。それは、わたしたちの魂を癒し、生きることを励まし、困難なときでも支えてくださる命の水です。では、この水をどのように得ることはできるのでしょうか。

実はこの水を得られるように、いつもイエスはわたしたちに語りかけています。この聖書の箇所を注意深く読みますと、サマリアの女性は自分から水を求めたではありません。イエスが女

性に「水を飲ませてくれるか」と声をかけたのです。わたしたちは実は受け身の存在です。

皆さんは渴いていないでしょうか。いま、自分の渴きを満たしてくるものを求めても、すぐに渴きを覚えないでしょうか。あなたを本当に満たし、うるおしてくれるものはありますか。

心の片隅に覚えていただきたいと思います。あなたの目の前には、命の水が置かれています。